



ルーテル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2020年1月5日

No. 68

わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。

エフェソの信徒への手紙 3章12節



礼拝献花より

御言葉に生きる

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。

申命記 30章14節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『恐れるな』

牧師 佐藤和宏

マタイ1章18節～25節

主の天使は次のように、幼子の誕生は、この預言が実現するためであったと告げています。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」「インマヌエル」、すなわち「神は我々とともにおられる」ことが、今日、ヨセフに向けられた「恐れるな」の理由でした。

私たちは一般に、あらゆる恐れ、あるいは自分たちを束縛する何かから自由にするのは、より強く、大きく、あるいは多い、そのような力によるものであると、理解するかもしれません。しかし、クリスマスの出来事が示す、私たちすべてのものをあらゆる恐れから解放するのは、大きく、強い力ではなく、小さく、弱さを感じさせる幼子によってでした。

パウロは、とげを取り除いて欲しいと、主に3度願ったことがあります。そして、主から与えられた答

えについて、次のように書いています。「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。」

この世の論理では、力は強さとともに、大きさ、多さとともにあるとなるのでしょうか。しかし、パウロに与えられた主なる神の答えは、「力は弱さの中でこそ十分に発揮される」というものだったのです。私たちが、（私たち個々人も、教会の交わりも）弱く小さく少ないのは、そこに神の力が十分に発揮されるためであると言われているのです。「十分に発揮されるため」と言われていますが、私たちが弱ければ弱いほど、主なる神の力は十分に発揮されるというのです。ですから、弱さ、小ささ、少なさ、足りなさといった、この世において恐れをもたらすものに惑わされてはならないのです。年を重ね、以前と同じようにできなくなった。年金生活のため献金が以前のようにならない。教会に人が増えない。若い人が少ない。財政が厳しい。私たちの恐れとなるような状況のただ中に、私たちは置かれています。しかし、

その姿は律法の規定の中で恐れたヨセフと同じなのではないでしょうか。ヨセフは主の天使が告げる「恐れるな」を聞き、それをそのまま受け止めたことで解放されたのです。自

らの判断ではなく、「恐れるな」と告げられる主なる神にすべてを委ねた時、ヨセフは恐れから自由とされたのでした。私たちもまた、ヨセフと同じように、このクリスマスにあつて「恐れるな」と告げる言葉を聞いて、そのまま受け止めるようにと招かれているのです。私たちの恐れる、弱さ、小ささ、少なさ、足りなさ。それは主なる神の力が十分に発揮されるために、かえって必要とされているのだ、ということなのです。パウロは続けて書いています。「だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」。十分に発揮されようとしている、主なる神の力に、すべて信頼して自分の弱さを誇りとすることができるのです。私たちの恐れの原因であった、高齢化も、様々な厳しさも、弱さ、小ささ、少なさも、いろいろとうまくいかない現実も、さらに病気であることも、そこに主

の力が十分に発揮されようとしているのであり、パウロに言わせるなら、「大いに喜んで誇りましょう」となるのです。

「インマヌエル」、神は私たちと共におられるという、今日、私たちが耳にした言葉は、「恐れるな」という主の告げる言葉の理由でした。マタイによる福音書の最後まで、イエスは「世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」、インマヌエルと約束しておられるのです。「インマヌエル」とは、イエスの呼び名ということではなく、イエスそのものの、つまり、イエスが世の終わりまで、いつも、変わらず私たちとともにいる神となられたことを示しているのです。ですから、私たちは出口の見えない不安、恐れ、悩み、孤独の中にあつたとしても、自分の弱さや足りなさ、小ささに不安を覚え、恐れる時にも、その時々私たちに主はともにいて、その弱さや足りなさの中に、悩みや悲しみに包まれる現実のただ中に力を十分に発揮されるのですから、「恐れるな」という呼びかけの中で、私たちは、安心して生きることができ

るのです。（クリスマス）

♪ ニューヨークより ♪ 藤が丘教会の皆さま

○飼由○子

クリスマスおめでとーございます。
アドベントを迎え、ニューヨークの街中もクリスマスの飾りつけでとても美しい季節となりました。我が家は2016年に渡米して、早いものでニューヨークでの4回目のクリスマスを迎えます。

長女は昨年よりカナダのケベック州モントリオールにある大学に通っております。昨年は一人で生活するので精一杯、マイナス30度にもなる冬の寒さに耐えられるのかと心配しましたが、今年は生活にも慣れ、様々な国の友人から刺激を受けつつ充実した大学生活を送っているようです。次女は日本の中学3年生、こちらでは9月から高校1年生になりました。渡米した時は英語が全く分からず現地校で一日何もせずに座っているような状態でしたが、今ではすっかりアメリカの高校生という感じになっています。そして……私はいつの間にか家族で一番背が低く、唯一英語

を話せない人になってしまいました。

夫、建一はアメリカでの新規事業開拓に携わっており、米国内出張も多くととても忙しくしています。週末は近くのテニスコートでテニスをする事が多く、時々テニスの大会にも出場しています。ニューヨークの日本人シニア（！）テニス大会男子ダブルスで一昨年は見事優勝、昨年は準優勝、今年は準・準優勝でしょうか……怪我をしないよう頑張ってもらいたいです。

私は昨年までは娘達のサポートに専念しておりましたが、今年はいくつか現地ボランティアに挑戦しました。テニスのNYオープン、USオープンや公園で行われるイベントのお手伝い、寄付されたパソコンを再生して必要な方へ無償で贈るお手伝い等々。ニューヨークで暮らし始めた頃はいろいろと戸惑うことも多かったですが、住めば都、今では多くのことを楽しんで受け止めることができるようになりました。

今年も世界各地の自然災害が多く、の被害をもたらしたことに心が痛みます。特に身近な多摩川の氾濫のニュースには驚きました。自然と向き合い備えることの大切さを感じると共に、平穏に過ごせる日々感謝です。

素敵なクリスマス、良い新年を迎えられることをお祈りしております。御恵みに感謝しつつ。



■投稿 首里城全焼の悲しみ

②

○藤○子

(前月号からの続き)

やがてバスは丘陵地帯を走り首里城へと入った。世界遺産になった首里城。礼を尽くして迎えるという守礼の門を通り城内へ。石を積んである塀が城内を囲んでいる。外敵を防ぐために右へ左へとなっている坂道を通り、やっと正殿の前へ。広々とした空間に、白い大理石の階段に朱色の美しい正殿が、空の青さに合い、まるで「琉球の顔」は、人を魅了する。「ワァー!」みな感嘆しきり。ほんとうに美しい。

琉球の島々を治め、近隣諸国の国々と外交。貿易を展開した首里王府の司令塔、王とその家族が住み、華麗な王朝文化に彩られた空間。この美しい建築文化、美術工芸、この価値観が世界遺産に選ばれたのかもしれない。一つの王国として栄えた国を、江戸時代に薩摩藩にメタメタに攻撃され、明治時代には人頭税をかけられ、生活苦にハワイへ移住してさとうきび栽培に苦勞した人々。大東亜戦争で激戦地となり、軍、一

般人合わせて25万人が亡くなり(一般人口15万人)、90日間の死闘は終わった。

海の青さにー空の青ー芭蕉布の歌詞であるが、ほんとうに海空の青の美しさ、南国の気候風土の中で、「人にやられても人を傷めない」風習ののんびりと生活していた人々が、外から散々傷めつけられ、悲劇を受けた。

ひめゆりの塔の映画は見ていたが、自分だけの耳学問でこんなに酷い、悲しいことを受けていたなんて知らなかった。

戦後74年になり、戦争を経験した人は、他界したので傷みを語る人は少なくなった。平和の中で、忘れ去られそうな事件、また戦争を語ると色目で見えるような風潮になっている。憲法9条も改憲の話が出ている。平和のための戦争放棄もゆらいでいる。しかし実際に悲劇はあった。日本軍が日本人を殺す悲劇があった。

8月15日は私の誕生日、敗戦の日となり「ハッピーバースデー」の気

分はなく、黙祷から始まり少しでも戦争の話に、子どもも耳を傾ける。そしてこの地球上から一人でも泣く人の少なくなることを祈っている。

「この小さな島で激しい砲火で倒れた男、爆雷を背負って死んだ青年、手榴弾で自らの生命をふき飛ばした少女、その憤りと口惜しさは、どんなにか激しいものであったでしょうか(『ノーモアオキナワ』の一節から)」

10月31日、朝食の用意をしていると、「沖縄首里城全焼」首里城が炎に包まれ、崩れ落ちて行く映像が目飛び込んで来た。「うそ!うそ!」あまりのショックに言葉が出ない。

沖縄については、ほんとうに無知だった私は、訪問して学び見て、何度も傷みつけられた苦しみを知り、それから何度か訪問し、基地が少しでも少なくなるように願っていたが、一向に減らず、そして辺野古まで埋め立てている。

あの海の青さが崩れて行く。そして沖縄の人々の心の拠り所だった首里城が、全焼してしまっ



た。悩んでいるとき首里城へ行くと、不思議と気持ちが落ち着くと話を聞いていたが、その島民を守ってくれたシンボルが無くなってしまった。

首里城は、沖縄の人々の癒しと未来を見つめさせてくれた。朱色で青空に映え、人を招いていたのに…。復元には、また何年かかるか分からない。

悲しみ、ショックを受けたが、あの美しい首里城を見られたことは、とても幸に思っている。(完)

■アネモス群一日修養会に参加して

○田○子

11月23日土曜日。当日はあいにくの冷たい雨でしたが、「心に重荷を負った方々に寄り添う」という講演タイトルに魅かれて、大岡山教会へと足を運びました。講師は大岡山教会員で臨床心理士の坂口晴実さん。藤が丘教会からは大人8名・子ども1名の参加でした。

午前中の講義では虐待、依存症、うつ病等多岐に渡りましたが、児童支援センターでの講師の体験談も含まれ、「問題のある環境にいる子どものために何が出来るのか」を真面目に考え、一生懸命に頑張っている講師の真摯な姿勢が感じられました。

お昼には、大岡山教会女性会の「心のこもった手作りカレーライスを美味しくいただき、午後はグループ対抗の漢字ゲームを楽しんだ後、「光のノスタルジア」というDVDを見ました。

『科学の視点では、今・この瞬間はあつという間に過ぎ去る。そこに留まっておらず、次の瞬間には過去

となる。しかしカウンセリングでは、『今・この瞬間』を大切にして、『今ここで起こったこと、今生じている気持ち』にこだわる。』その比較を映像を用いて分かり易く話され、『今・この時を大切にする』カウンセリングの特徴と良さを、もう一度教えられました。また、その後講師が話されたカウンセリングマインド「他者に、偏見や固定概念を持たない純粋な関心を向ける。他者との間に溝を作らないオープンな心を持つこと」を改めて学べたと思います。

最後に講師の述べた『神様はその人が行なったことを評価するのではなく、我々は居るだけで、神様は恵みを下

さる。神様は何をしたかは問われず、人はただ居るだけで良しとされる。』という言葉に感銘をしました。

働いていた時、周囲の評価を気にしてあくせくしていたことを思い出して、「当時、恵みは充分に与えられていたのに。何を焦ったり、悩んだりしていたのだろう。」と今振り返ってみて、自分の信仰の未熟さを感じています。

当日、グループ討議で意見を出し合ったり、最後に会場の全員が感想を述べたり。参加者50名弱。その一人ひとりがその場で自分の意見を話すことの出来る規模で和やかな雰囲気があり、講師の「参加者個々の思いを大切にする姿勢」が伝わってきました。講師の坂口さん、また我々を快く迎えて下さった大岡山教会の皆様には感謝致します。

今月の受洗記念日の皆さん

- 1日 ○瀬○允兄、○田○兄、倉○姉、○井洋○兄
- 8日 田○(金)○兄
- 11日 ○田沙○子姉、○田○志兄
- 12日 名○望○兄
- 17日 ○野○苑姉、吉○子姉

おめでとうございます。

「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」申命記 30 章 14 節

藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前 10 時半)

■クリスマスあれこれ

昨年12月に、クリスマス関係の行事が行われました。

●クリスマスコンサート 7日(土)

地域に皆さんへ教会からのクリスマスプレゼント。恒例となったコンサートは、トリニティーホーンズの皆さんをお迎えしてのジャズコンサートとなりました。また、初めての試みとして、15時開演と、時間を早めて実施しました。いかがだったでしょうか。



洗礼を受ける大〇早〇さん

●クリスマス礼拝 22日(日)

礼拝にて、大〇早〇さんが洗礼を受けられました。教保は、〇井〇子さんにお願ひしました。新しい信仰の歩みの上に、主の祝福をお祈りします。礼拝には、大人80人、子ども7人が出席されました。礼拝後は祝会があり、田〇〇夫さんの司会で楽しい時間を過ごしました。こちらも50人以上の方々が残ってくださいました。

●クリスマスイブ・キャンドルサービス 24日(火)

イブ礼拝も、例年より多くの方が来てくださり、静かな夜を過ごしました。

クリスマスコンサートで演奏する
トリニティーホーンズ



クリスマス祝会の一場面

■女性会だより

女性会 12月15日

出席者11名

司会 小〇姉

聖書 フィリピの信徒への手紙

1章12節 賛美歌 4番

その他 今年度の献金について
の話し合い

■教会の動向



12月の教会は、1日の待降節第1主日を、創立記念として礼拝を守りました。1983年11月27日の待降節第1主日に最初の礼拝を守ったことを記念しました。3日(火)には洗礼準備会。4日(水)には聖研がありました。7日(土)には、上記の通り、クリスマスコンサートが開催されました。8日の待降節第2主日は、礼拝後、エウテイコの会がありました。10日(火)には、「よこはま藤が丘音楽祭」準備委員会がありました。11日(水)はお仕事会。12日(木)には洗礼準備会がありました。15日の待降節第3主日は、礼拝後、式文の学び、女性会がありました。17日(火)には手仕事サロンのがありました。18日(水)は聖研がありました。19日(木)は洗礼準備会がありました。22日はクリスマス礼拝と祝会、24日は、クリスマスイブ礼拝でした。29日は降誕節第1主日、一年の最後の礼拝が守られました。一年の歩みに感謝します。今年もよろしく願ひします。(佐藤)